



2021年 3月244号

ふるさと



グループホームあじさい園

植物の名前の由来を調べますと、「アジサイ」は、古い言葉のアジ（集まる）と藍色のアイからきました。あじさい園は「愛のあじさい」ですね。「シヨウガ（茗荷）」は首から名札をかけて一生懸命働かれたお釈迦さまのお弟子さんのお墓に咲いた花。

「アケビ」は、アケビの実が口を開けてアケビをしたような名前から。「スイレン」は、朝、花を開いて夕方には閉じるので、睡（ネム）る蓮（ハス）という意味。「ツバキ」は葉に光沢があり、艶のある葉をもった木、ツバキからきました。「ネムノキ」は、木の葉が夜になるとピクピク閉じるので、ネフリノキからネムノキになりました。「ワレモコウ」は、葉に切れ込みがあり、莖や葉にちよっと香りがあるという意味。それぞれおもしろい名前がありますね。「アセビ」は、有毒植物で、鹿や馬が食べて中毒になるため、馬酔木と書いてアセビと読みます。奈良公園近辺にはたくさんあります。

「ウツギ」は、4月のこぼれを卯月ウツギと呼び、卯月に咲く花という意味。「ゲンノシヨウ」は、白やピンクの小花ですが、草は薬の効果があつて、現の証拠だとか。「ソメイヨシノ」は、東京の染井の植木屋さんが売り出したため。「カラスウリ」は、赤い実をカラスが食べ残したウリのようだから。「コマツナギ」は、莖がウマ（駒）をつなげるほど丈夫だから。

「ムラサキ」は小さな白い五弁花ですが、根が紫色で、お公家さんやお坊さんの高貴な位をあらわす紫に染めるのきに使われるため。「エリネ」このランは根に節が多く、エリの背に似ていることから海老根になりました。「アジタバ」は、明日葉と書き、新芽を今日切り取っても翌日には再生するため。「ツワブキ」は、葉が厚く光沢があり、フキの葉に似ていることから艶のあるフキ。「アヤメ」は、もこの部分（外花被）に黄色と白のダイヤ模様をあやの目と呼ばれアヤメになりました。

クスノキの由来、香り高く寿命が長い奇（クス）しい木とか、防虫剤の原料のため薬の木とも言われています。四天王寺境内にはクスノキが139本と圧倒的に多くあります。戦後の復興期、環境の悪い周囲からの隔絶の目的でスモックに強いクスノキが植えられたそうです。

植物のお名前やお役目に敬意を表して、春を迎えたいと思います。

3月の行事予定

3日（水）ひな祭り

14日（日）昼食会

27日（土）お誕生日会

※塩田医師の定期往診もあります。

あじさい園のホームページもご覧ください。



節分豆まき 2月3日

今年も鬼退治の季節がやって参りました！鬼に扮した職員めがけて勢い良く豆を投げ厄除けを行いました。「コロナも入って来るな〜！」と皆様の健康も祈願しておられました。その後は豆を食べつつ和やかな時間を過ごしました。



お誕生日会 2月14日

この日は、阪口ちず様と小寺益美様の誕生日を皆様でお祝いしました。ハッピーバースデーの歌を合唱し玉入れレクを行いました。身体を動かした後はケーキを堪能し歓談の時間を楽しみました。



昼食会(ちらし寿司) 2月21日

今回、ちらし寿司の具材は入居者様にトッピングしていただきました。「漬けマグロもあるんか！」と大喜びで酢飯の上へ乗せておられました。味も絶品で皆様ペロリと完食しておられました♪

